成蹊大学新聞

発行所　成蹊大学新聞会
〒180－8633　東京都武蔵野市吉祥寺北町3－3－1 成蹊大学内
電話 090－8744－2926
Mail:seikeipress@mail.goo.ne.jp
発行人　渡邊　光紀
編集人　佐藤芳太郎
（1950年7月7日創刊）

成蹊大学正門脇
けやき歯科医院
診療時間
AM9:30～PM1:00
PM3:00～PM6:30（平日）
PM2:30～PM6:00（土曜）
休診日　木曜・日曜　祝日
武蔵野市吉祥寺北町3－5－41
コーポけやき103
☎(0422)51－3386

08年度就職内定率は微増

求人倍率は昨年がピーク

本学キャリア支援センターが、08年度卒業生の就職状況（09年3月31日付）を発表した。08年度の就職内定率は、例年の高水準からさらに微増して99％となった。また理系は内定率が100％で、就職希望者全員が就職したことになる。

昨年度の学部別就職内定率は、経済学部99・5％、文学部98・8％、法学部97・7％、理工学部100％となった。就職希望者数は1462人で、そのうち99％の1447人が内定を得た。

▼主な内定先

文系男子は、みずほ銀行に11人、八千代銀行に7人が内定。ほかにも東京都民銀行と三井住友海上火災保険、三菱東京UFJ銀行にそれぞれ5名と金融業の内定が目立った。文系女子・理系に比べ、さまざまな企業に内定が分散するのが文系男子の傾向で、なかでも昨年は博報堂や電通、JR東日本など難関で知られる企業にも内定を得た。

文系女子の内定者数トップもみずほ銀行で、37人が内定を得た。続いて東京海上日動火災保険とみずほ信託銀行に22人、三井住友海上火災保険に17人、三菱東京UFJ銀行に15人、日本生命と三井住友銀行にそれぞれ12人と例年同様、金融業において高い内定者数を維持している。また、東芝や東京電力、丸紅など大手企業の総合職や、主婦の友社、NHKといったマスコミ系企業にも内定を得ることができた。

理工学部は、本田技研工業に8人、第一生命情報システムと三菱電機に5人、キヤノン、東芝、三菱電機ビルテクノサービスにそれぞれ4人が内定。また女子学生では、みずほFGの基幹職（数理情報コース）に3人が内定した。

▼昨年度の傾向

昨年の大卒求人倍率は、一昨年と変わらず2・14倍と高い求人率だった。しかしキャリア支援センターの三浦俊哉部長は「企業は採用基準に満たなければ無理に採用しない。つまり、求人数＝採用数とはならないため、数字として発表されている求人率以上に現実は厳しいことを認識してもらいたい」と話す。

昨年は、毎年多くの内定者を出している金融業への内定は維持しつつ、大手企業の総合職や、狭き門とされるマスコミ業界にも内定を得た。しかし、昨年秋のアメリカ・リーマンブラザーズの経営破たんを発端として景気は一変し、業績悪化に伴って、内定を取り消す企業も現れた。本学でも数件内定を取り消される結果となったが、そのほとんどがキャリア支援センターを利用していないケースであった。

最後に三浦部長は、「昨年の求人率がピークで、今年度は経済悪化の影響もあり、求人倍率が1・62まで下がっている。その上、企業の厳選採用は変わらないので、今年度の就職活動が厳しくなるのは間違いない。企業は採用において学生の潜在能力を見ている。大学生活では、ゼミを始めとした勉強や、サークルなどの課外活動に積極的に挑戦して、自分を磨いてほしい。そして企業に対して自分自身を語れるようになることと、キャリア支援センターを利用した情報収集が就職活動の成功につながる」と語った。

（田原口茜）

2008年度　卒業生就職状況

学部	卒業者数	就職希望者数	内定者数	内定率（％）	就職率（％）
経済	503（199）	433（182）	431（181）	99.5（99.5）	85.7（91.0）
文	508（419）	422（356）	417（353）	98.8（99.2）	82.1（84.2）
法	432（188）	345（165）	337（163）	97.7（98.8）	78.0（86.7）
文系学部	1443（806）	1200（703）	1185（697）	98.8（99.1）	82.1（86.6）
理工	366（73）	262（53）	262（53）	100（100）	71.6（72.6）
全学部合計	1809（879）	1462（756）	1447（750）	99.0（99.2）	80.0（85.3）

※理工には工学部も含む　※（　）内の数字は女子

思耕

知ることが、始まりだ。

皆さんの中には、本学で祝日にも授業が行われることを知った時、戸惑った方もいるのではないだろうか。本学の場合、今年度は4月、7月、10月、12月の4回、祝日授業日が設けられている。これ以外にも、5月、7月、12月、1月の土曜日に1回ずつ、授業が行われる。これは本学に限ったことではなく、他大学の一部でも行われているが、祝日・土曜日の扱いは大学によってさまざまのようだ。

授業時間数の決定は本来、大学側の自由な裁量に任せられているはずだ。「ゆとり教育」のもと週休二日制が教育現場の主流となりつつあった時代、国公立大学はもちろん私立大学においても土曜日を休日とする大学が多かった。土曜日に行われていた授業は平日に振り分けられるなど、各大学が独自に日程を調整していた。

一方で、文部科学省が作成した大学運営に関する省令である「大学設置基準」というものがある。この基準書の中で大学側には、1年間に目安とされる授業時間数が設けられている。近年、この基準書を強く意識した大学運営が行われつつある。その背景には様々な理由が挙げられているが、この基準書の存在が、休日にも授業を行うという現在の状況を生みだした一因と言えるだろう。

十分な授業時間を確保することは、大学が最高学府として果たすべき責務だ。だが休日を消費する事について、学生側に対してしっかりとした説明と周知徹底は図られているのであろうか。また授業を執り行う教授陣、業務を受け持つ職員たちの間で、休日における これらの負担について了解はなされているのか。

残念ながら現時点で、大学側が休日に授業を行うことに対して、学生側に明確な説明が行われているとは思えない。それと同時に学生側でも、ただ大学の方針に従うのみで、休日に授業が行われることに対して、不満を抱くだけで、知ろうとする姿勢に欠けているのではないだろうか。

近年、本学では授業時間数を確保するため、祝日に授業を行う以外にも欅祭の期間を短縮したり、昨年まで2週間であった試験期間を今年度から1週間に短縮するなどしている。だが、もしこれら一連の変更について大学と学生の間で、十分な意志の疎通がなければ、後々まで禍根を残すことになりかねない。

「大学生活」に対する価値観は、いまや多様化している。ただ、学生の本分が学業であることに変わりはない。例えば授業が休講になった時、手放しでそれを喜んでいるだけでよいのか。学生は大学側に授業料を払っている。より質の高い授業を、よりよい学習環境を求める権利がある。大学の運営についてもっと関心を持つことは、自らの大学生活をより充実したものへと変えてゆく大切な一歩ではないのか。

大学側は学生が求める授業を、学生がより快適に学べる環境を提供する義務がある。同時に、大学運営について学生に対し、十分な説明を行う義務もあるはずだ。休日に授業を行うことについて、確固たる理由があるのならば、それをしっかりと学生側に説明し、学生側の理解を求めてゆくべきではないか。

新聞会では、今後休日授業の問題について調査を進めてゆく予定だ。

成蹊大学新聞会は今後も正確な情報を伝えることに全力を挙げ、大学と学生をつなぐ架け橋の一端を担っていきたい。そのことこそ、学生が大学を知り、大学が学生を知ることにつながるからだ。

（佐藤芳太郎）

第32回桜祭

満開の桜の下開催

第32回桜祭が4月5日に開催された。主催は成蹊会で、毎年4月の第一日曜日に行われている。主な目的は、各団体の同窓会を開くことと、卒業生と在校生との交流を図ることだ。今年のスローガンは「さくら色に染まれ」。当日は快晴のもと、満開の桜が来場者を迎えた。本学関係者に加え、学園周辺の住民など約6000人が来場した。

今年も学内に4つのステージを設置。本館前の第1ステージは、成蹊小学校の児童による和太鼓の演奏から始まった。また、成蹊高校の現役生とOB・OGたちによるオーケストラの公演も行われた。さらに、大学4号館の第4ステージでは、現役の混声合唱団による演奏会や、ダンスサークルJAM[N]のOBたちによるダンスショーが披露された。

正門から本館前までの道には各同窓会や、卒業生と在校生が共同で出展した模擬店が立ち並んだ。ほかにも、情報図書館前ではアイメイト協会による盲導犬との体験歩行、本館前芝生では茶道部による茶会、馬場では体験乗馬が行われた。また、大学1・2号館や学生会館の各教室には、約50もの卒業生団体の同窓会会場が設けられた。

桜祭では、樹齢80年を超える桜並木を始め、学園にある約120本の桜の保存を目的とした「桜募金」を募っている。今年は昨年度ミス成蹊の刀祢有理奈さん（物質生命2）と準ミスの河田祥子さん（国際文化3）が募金箱を手に会場を回り、来場者へ募金を呼びかけた。

成蹊会の高橋道哉事務局長は「当日は快晴のもと、皆さんに満開の桜を楽しんでもらえてよかった。学園関係者だけでなく、近隣住民の方々にも桜祭が広まってきているようでうれしく思う」と語った。

（渡邊光紀）

本館前メインステージには多くの観客が集まった

400mグラウンド

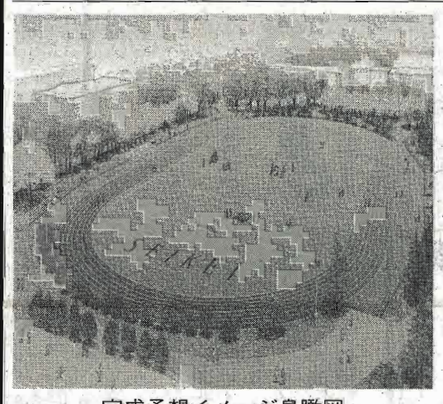
6月から全面改修へ

400mグラウンド改修工事が、学内陸上競技大会終了後の6月中旬から開始される。創立100周年記念事業の一環として、小中高大の正課授業、課外活動および学校行事といった多目的な利用が可能になるよう改修を行う。

今回のグラウンド整備は主に6つの点を考慮して行われる。1、日本陸上競技連盟4種公認に準拠したグラウンド設備の整備を行う。2、インフィールドの人工芝化を行う。ラグビーやサッカーなどのスポーツにも耐え得る強度で、なおかつ十分な排水性能を有する人工芝を敷く。3、トラックのウレタン舗装。また、現在は7トラックの周回コースであるが、これを8トラックにする。4、照明施設の増設。夜間練習が可能となるように、現在ある4塔の照明塔の間にさらに4塔を増設する。なお、近隣住民に迷惑がかからないよう、照明施設の配置には配慮がなされる。5、スタンドの整備と新設。南側にある既存のスタンド中央に、本部席を新設しスタンド整備を行う。北側にも、工事の際に出る残土を利用してスタンドを新設する。この工事により、南北のスタンドの総収容人数は約1200名となる。6、スコアボードの設置。時計は文字盤挿入タイプのカウントダウンタイマーを設置する。

順調に工事が行われれば、11月末頃に完成する予定だ。

（原田健志郎）



完成予想イメージ鳥瞰図

紙面から

2 「リベロス」東日本優勝
2 アーチェリー男子1部残留
2 体験入部「劇団円想者」

09年度予算決定

約2億5千万円増へ

学校法人成蹊学園の09年度予算が3月27日の理事会および評議員会において承認された。今年度の大学帰属収入は113億4400万円、消費収支予算の支出総額は105億5700万円で、昨年度より2億4800万円の増額となった。

今年度の予算支出のうち主な事業は次の項目。

▼ラグビー場に人工芝を敷設▼400メートルトラックのウレタン舗装化、南側にある観覧席の整備、北側にも観覧席を設置▼大学7・8・14号館・情報図書館に設置している情報教育システムの入れ替え▼大学3号館に設置されているCALLシステムの入れ替え▼大学3・6号館に設置している証明書自動発行システムの入れ替え▼大学4・5号館の視聴覚設備の更新▼大学9号館入り口に自動ドアを設置▼旧箱根寮宿舎跡地の東側広場にバーベキューコーナーを設置。08年度に整備した周遊歩道沿いにシャクナゲを植樹▼大学7号館2階トイレの改修▼大学12号館エレベーターの改修▼大学体育館給湯設備の設置▼大学国際交流会館学生居室の改修▼野球場外野フェンス防護マットの改修▼北プールサイドの滑り止めの改修▼馬場の砂の入れ替え▼北1号館の取り壊し▼西1号館入退室システムの改修▼本館改修工事▼卓球場北側沿道のコンクリート塀に沿って、ウバメガシを植樹。

（高山彰）

News Flash

▼なんでも相談窓口開設

学生部学生生活課では今年度より「何でも相談窓口」を開設した。これは学業成績や就職、健康面や対人関係など、さまざまな学生の悩みに柔軟に対応することを目的としたものだ。そのため、窓口では学生と直接対話することを重視している。その場で解決できることはその場で解決し、その場で解決できない場合は適切な部署を紹介する。紹介先は相談内容に合わせて教員や教務や学生相談室などだ。

希望者は本館1階西側の学生生活課「何でも相談窓口」まで。時間は、平日は9時から11時半、12時半から17時。土曜日は9時から12時まで（日曜日、祝日、学園休業日を除く）。

（小倉幸代）

▼学長オフィスアワー

企画運営課主催の「学長オフィスアワー」が、本館2階の学長室で行われる。

日時は6月16日、7月14日、10月14日、11月18日、12月8日で、いずれも12時30分から14時まで。参加を希望する場合は、学生証を持参の上、学長秘書室を訪ねる。予約は不要。

この企画は「直接学長と対話ができる」というもの。学長の「学生の意見を聞き入れ、互いの理解を深めたい」という希望から設けられた。対談内容は特に決められておらず、学生が自由に話題を持ち込むことができ、毎回様々な話題で盛り上がっている。詳細については、本学のホームページに掲載されている。

（榎戸篤）

並木道

内定を取ること？　私は、これから乗り越えゆかなければならないたくさんのゴールラインを睨みつけながら、考えていた。「本当のゴールってどこにあるのだろう？」

▼第二次世界大戦中に強制収容所へと送られた体験を記した、ヴィクトール・E・フランクルの『夜と霧』。この本の中で次のようなエピソードが語られる▼収容所生活に喘ぐ男が、夢の中で予言の声を聞く。「あと2ヵ月間耐えればこの生活は終わる」と。彼はその日までただ耐え忍ぶことを目指し、2ヵ月後を彼の「ゴール」とした。しかし戦況が悪化し、その日までに解放されないことがわかると、心が折れ、突然高熱を出して死んでしまう。彼の中の「ゴール」とは、単なる時間としての「境界線」だった▼「ゴール」という言葉には、もう一つの意味がある。それは「目的」だ。「生きる目的」を持つ人間は、苦しみさえも「目的」のための糧にできる。しかし、苦しみを終えるためだけに「境界線」まで耐え忍ぶ人間は、消極的にしか生きられない。そして、この男のように、いつかは人生を放棄してしまうだろう▼私たちは常に、「境界線」を乗り越えていくことを脅迫されながら生きている。しかし、そのせいでもっと本質的な「生きる目的」を置き去りにしている。私は、何のために生きるのかをもう一度見つめなおし、「本当のゴール」を目指して歩んでいきたい。

（渡邊光紀）

「ゴール」と聞いてあなたは何を想像するだろうか。学校を卒業すること？

桃李

Legend of Haruji

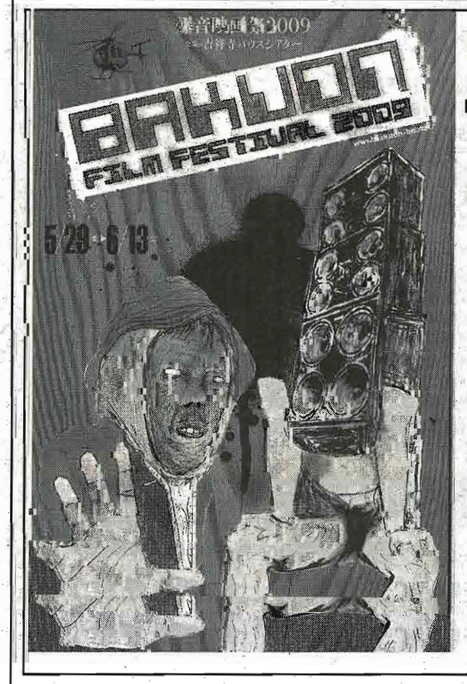
【第2回】春二は大学在学中、曹洞宗第一中学林で講師をし、教えることの楽しさと喜びを感じていた。そんな折、イギリスに留学している岩崎小弥太から手紙が届いた。そこには「日本の教育は、教師が教科書の内容を一方的に生徒に詰め込むものだ。しかし、英国では生徒の個性を尊重した自由な教育が行われている」と書かれていた。春二はこの手紙を読み、個性を尊重した教育の必要性を実感し、教育者になろうと決意する。

春二は大学卒業後、成蹊学園設立に大きな役割を果たすことになる小藤小波と結婚する。ちょうど同じ頃、中学時代の同級生が開いた麹町女学校で国語教師を務めることになった。春二は、生徒の心をつかむのが上手く、評判は瞬く間に広まった。地方の学校からも指導を依頼され、各地で個性を重視する教育の必要性を訴えた。しかし、教師たちからは「教科書の内容を教えるだけで手一杯だ。個性を重視した教育がしたいなら自分で学校を作ればいい」と馬鹿にされる。春二は返す言葉が無く、唇を噛みしめるのであった。

続

（相崎拓也）

小藤小波夫人



爆音映画祭 2009
5月29日(金)－6月13日(土)
上映作品
ゾンビ(ダリオ・アルジェント監修版)
デス・ブルーフ in グラインドハウス
デトロイト・メタル・シティ
2001年宇宙の旅
ピアノチューナー・オブ・アースクエイク
非行少女ヨーコ
ヘアピン・サーカス
ヘドウィグ・アンド・アングリーインチ
放蕩息子の帰還／辱められた人々
マリー・アントワネット
マルホランド・ドライブ
アイム・ノット・ゼア
映画史
KIKOE
雲の上
狂い咲きサンダーロード
拘束のドローイング9
こおろぎ
国道20号線
さ・鬼太鼓座
地獄の黙示録　特別完全版
ザ・ローリング・ストーンズ　シャイン・ア・ライト
The World
詳細はホームページまで
http://www.baustheater.com　携帯からはこちら↓
絶賛公開中
吉祥寺バウスシアター
吉祥寺バウスシアター
☎0422-22-3555
☎0422-22-3555
映画館までの道のり

成蹊大学新聞は
☆学内唯一の学生主体メディアです
☆企画・取材・撮影・執筆・制作・広告営業・運営など全てを学生が行っています
☆ちなみにこの広告も学生が作ってます
☆4・5・7・11・12月の年5回発行
☆月・水・金曜日に学生会館3階で部会
☆略称はSUP（Seikei University Press）
☆まだまだ新入部員募集中
よろしくお願いします♡
よろしくお願いします♡

アルティメットチーム リベロス 東日本フレッシュマンズカップ 優勝

第14回東日本フレッシュマンズカップOPENの部のトーナメントが4月11・12日に行われ、本学アルティメットチーム・リベロスは準決勝で慶應義塾大を接戦の末、破る。この結果、本学は4月29日に味の素スタジアム・アミノバイタルフィールドにて行われた決勝戦に臨んだ。

決勝の相手は日本体育大学のバーバリアンズ。序盤、相手に押され続けるも何度も巻き返しを見せ、サドンデスまで持ち込み逆転勝利。本学は7年振りの優勝を収めた。

なお、試合は各チーム7人ずつで行われる。1枚のディスクをパスでつなぎ、コート端にある相手エンドゾーン内で味方からのパスをキャッチすると得点となる。試合時間は40分。同点の場合は一点先取のサドンデスで勝敗が決まる。

《試合結果》
○6−2　対國學院大
○8−2　対日本大
○5−4　対慶應義塾大
○7−6　対日本体育大

決勝点を決め、喜びを分かち合う選手たち

序盤は相手にペースを握られる。開始1分、味方エンドゾーン前で本学のパスがカットされ、そのまま相手に先取点を許す。その後も本学のキャッチミスが目立ち、うまくパスを通せない。相手の素早い攻撃で連取され、開始10分で0−4と大きく得点を離される。

しかし、本学はここから反撃を開始。12分、慎重にパスをつなぎ、中嶋雄一選手（経済経営4）がフェイントを使いながらスロー。江崎泰介選手（法律4）がこぼれをキャッチし初得点。15分には、後方からの長いスローを武居恭平選手（経済経営4）が、ジャンピングキャッチし2点目を返す。また、前衛でのパス回しから藤澤脩矢選手（経済経営4）が得点。さらに20分、中嶋選手が相手の攻撃をカットしパスをつなげ、江崎選手が追加点を奪う。このプレーで本学は4−4と同点に追いつく。

その後も本学は積極的に攻めるも、相手エンドゾーン内でのキャッチミスが続き、何度も逆転のチャンスを逃す。さらに相手の速いパス回しに翻弄され、4−6とまたも突き離される。

残り5分。藤澤選手が相手のパスコースを見極めダイビングカット。そのまま攻め上がり、新井一希選手（経済経営4）が得点。5−6とする。そして残り1分。後方からのスローを、新井選手が相手に競り勝つ高いジャンプでもぎ取る。試合終了直前の同点劇に、本学サイドから歓声が上がった。そのまま40分が終了。一点先取のサドンデスへと突入した。

サドンデスでは一進一退の攻防が続く。危うく相手に得点を奪われそうになる場面が続くも、藤澤選手が何度も相手の攻撃をカットし、チームを守る。そして、サドンデス開始4分。相手エンドゾーン前から、杉野悠貴選手（経済経営4）が相手ディフェンスをかわす、カーブのかかったスローを放つ。武居選手がディスクを追いかけ、ジャンピングキャッチ。この瞬間、本学は7年ぶりの優勝を決めた。

試合を振り返って主将の秀永匡聡選手（経済経営3）は「サドンデスに入った時は、チームに勢いがついていたので、いけると確信した。勝ちたいという気持ちの入ったいい試合でした」と話した。

また、今回大会MVPに選ばれた藤澤選手は「ディフェンスでチームに貢献できた。何よりもチームが勝ってたことがうれしいです」と勝利の喜びを語った。（渡邊光紀）

アーチェリークラブ男子 一部残留

関東学生アーチェリー連盟男子リーグ1部2部入れ替え戦が、5月10日に富士見市立教総合グラウンド射場で行われた。

1部2部入れ替え戦は1部の本学と上智大、2部の学習院大と芝浦工業大の4校で行われた。この中の成績上位2校が、1部に昇格、残留できる。本学アーチェリークラブ男子は3位の芝浦工業大に65点差をつけて、2位で1部に残留した。

試合は50、30メートルラウンドで行われた。これは、的からそれぞれ50、30メートル離れた所から矢を放ち、得点を競う形式。各ラウンドには選手が8人出場し、6回ずつ矢を射る。1回の最高得点は60点で8人中の上位6人のスコアがチームの総得点として争われる。

《男子入れ替え戦結果》
学習院大　3738点
成蹊大　3667点
芝浦工業大　3602点
上智大　3518点

試合は50メートルラウンドから始まった。このラウンドで本学選手は50点台のハイスコアを連発。1回目で杉浦秀文選手（エレクトロ4）が53点を出したのを皮切りに、ほかの選手もこれに続く。その中でも杉浦選手と石川恒貴選手（政治3）は抜群の安定感を見せる。両選手は5回目で50メートルラウンドでの最高得点となる56点を叩き出すと、総得点も306点とし、チームトップの活躍を見せた。

50メートルラウンド終了時の本学のポイントは1746点で2位。1位の学習院大との差は28点で、本学は30メートルラウンドでの逆転を目指す。

30メートルラウンドでも本学選手の調子は変わらない。1回目で杉浦選手が60点中58点という好記録を出すと、それに石川選手と渡辺修平選手（法律2）も追随する。3回目には両選手が59点のハイスコアを出し、チームを牽引。石川選手は5回目でも59点を記録し、学習院大にプレッシャーをかける。また、杉浦選手は6回すべてのスコアで55点以上の高得点を取り、チームの勝利に貢献した。

本学はこのラウンドを1921点で終え、最終スコアを3667点とした。学習院大には追いつけなかったが、2位をキープし、1部に残留した。

小林慧主将（法律4）は「チームが団結して強気で攻めることができました。50メートルで得点を伸ばせたのが勝因」と語った。

的に向かって狙いを定める本学選手

バスケットボール部男子 2年ぶりの四大戦優勝

四大戦バスケットボール男子の対成城大戦が4月19日に成城大学にて行われた。本学は成城大を83−64で下し、見事優勝を決めた。前日、武蔵大を相手に100点を奪った成城大に対し、一度もリードを許さないという、ディフェンスが際立った試合となった。

《試合結果》
○67−51　対武蔵大
○69−63　対学習院大
○83−64　対成城大

開始1分、本学のスリーポイントで幕を開けたこの試合。厳しい展開が予想されたが、徹底した本学ディフェンスは成城大に攻撃の隙を与えない。本学ディフェンスは相手オフェンスに素早く詰め寄ることにより、パスを封じる。さらに、リング付近からのシュート、リバウンドといったインサイドからの攻撃の芽をことごとく摘む。このいい流れは本学オフェンスに勢いをもたらす。第1クオーター3分、藤居克也主将（英米文4）が2人抜きからのシュートを決める。その後も、藤本和也選手（経済経営2）のスリーポイントシュート、喜田俊太郎選手（経済経営3）のリバウンドなど終始本学のペースのまま、第1クオーターを31−8で終えた。

第2・3クオーターは一転、成城大が高さを生かした攻守をみせ、本学は苦戦する。第1クオーター終了時の23点差はみるみる縮まり、10点差まで追い上げられる。

しかし第4クオーター中盤、この流れを変えたのは、やはり主将だった。第4クオーター5分に2本連続でスリーポイントを決めると、その直後にボールを奪ってからの速攻、さらにファールに伴うフリースローの両方を決め、チームを鼓舞。それにより流れを取り戻した本学は第1クオーター同様に相手の攻撃を封じ、そのまま試合は終了。2年ぶりの四大戦優勝を決めた。

試合後、主将は「インサイドからのシュートを防いだのが勝利の要因。2月から練習してきたディフェンスが機能したことが勝利につながった。今後はディフェンス同様、組織的なオフェンスを練習したい」と述べた。（大城卓人）

文化団体活動予告

ジャパルサウンズジャズオーケストラ

3年生を中心とした本学レギュラーバンドが参加する「シーガルライブ」が6月14日、横浜市立大学八景キャンパスのシーガルホールにて開催される。時間は午前11時から午後5時まで。約10の大学のジャズオーケストラが出演するジョイントコンサートだ。

6月21日には江古田バディにて開催される「ハローヤングパワー」に、1・2年生で構成された本学Jr.バンドが出演する。多くの大学の若手バンドが集まり、勢いあるライブとなりそうだ。

総責任者を務める宮島司さん（政治2）は「どちらのバンドも親しみやすい選曲をしているので、初めての方も楽しめるライブになっています。ぜひお越しください」と語った。（塚崎俊太朗）

陶芸研究会

「大陶芸展」が6月16日から19日までの4日間、学生会館305・306教室にて開催される。時間は午前10時40分から午後4時20分まで。

今回のテーマは「おいしいもの」。実用的な湯飲みや、可愛らしい花柄の皿など、部員が思い描く「おいしいものを入れる陶器」を展示する。1年生にとっては初めての、3年生にとっては最後の展示会となる。

部長の駒林薫子さん（現代社会3）は「粘土は自由自在に変形するので、作品には部員一人ひとりの個性が自然と表れます。もの作りに興味のある方は、ぜひ展示会を見に来てください」と話した。（鹿島健）

管弦楽団

6月21日、武蔵野市民文化会館で「サマーコンサート'09」が行われる。開場は午後2時で、開演が2時半から。

曲目は狩人マックスの心境を静けさと激しさのコントラストで表現したウェーバーの「魔弾の射手序曲」。にぎやかで明るい楽章が印象的なボロディンの「交響曲第2番」。快活な響きで統一感のあるブラームスの「交響曲第2番」の3曲により構成されている。

部長の戸叶智さん（経済経営3）は「皆さんに充実した時間を過ごしてもらえるよう、精一杯練習しました。ぜひ友達と一緒にお越しください」と語った。（長谷川世納）

写真部

「学外展」が6月12日から14日までの3日間、Gallery LE DECO 渋谷にて開催される。時間は午前11時から午後7時まで。最終日のみ午前11時から午後5時まで行われる。

展示される約50点の作品は自由なテーマで制作され、部員それぞれの個性が表れたものとなっている。また、新入生にとってはこれが初めての出展となる。

部長の神木剛さん（経済経営3）は「モノクロ写真は白と黒のコントラストが魅力です。特に力を入れたので、ぜひ注目してください」と語った。（野澤小夏）

混声合唱団

本学、成城大、武蔵大合同の定期演奏会「合唱連盟虹の会」が6月27日に国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催される。開場は午後4時半、開演は5時。入場料は800円となっている。

本学単独ステージの曲目は『北極星の子守歌』より「海」「われもこう」「自転車でにげる」「北のみなしご」「北極星の子守歌」の5曲。いずれも美しいハーモニーが特徴的な楽曲だ。また3大学合同ステージでは、今回の演奏会のために作曲された「Z境」が初披露される。

部長の伊藤祐一さん（法律3）は「合同ステージでは人数が多い分、厚みのある演奏ができると思います。ぜひ聴きにきてください」とコメントした。（渡邊光紀）

茶道部

「薫風茶会」が6月7日、武蔵野市民文化会館4階茶室にて行われる。時間は午前10時から午後3時まで。参加希望者は、茶席で30分ほど、茶道部員がたてたお茶と和菓子を楽しむことができる。当日受付で、料金は700円。

茶会のコンセプトは、春から夏への移り変わりの季節を感じてもらうこと。波の模様をあしらえた抹茶碗や、ガラス製の涼しげな水差しなど、初夏を感じさせる茶道具で来場者をもてなす。

部長の小太刀有香さん（日本文3）は「お茶会が初めての方でも心配いらっしゃいません。学校からも近いので気軽にお越しください」と話した。（渡邊光紀）

美術部

6月19日から21日までの3日間、原宿のデザインフェスタギャラリーにて「水無月展」が開催される。時間は午前11時から午後6時まで。

今回の展示会ではテーマを統一せず、部員が自由に制作した約15点の作品が出展される。ギャラリーには本学美術部以外の美術団体や個人の展示もあり、多くの作品にふれる機会となるだろう。

部長の島本貴誠さん（情報科学3）は「個性豊かな作品がたくさん展示されます。美術に興味のある方もない方も、ぜひお越しください」とコメントした。（河野伸介）

成蹊大学新聞会 2008年度決算

収入合計 ¥1.123.400		支出合計 ¥1.380.248	
学園援助	¥417.900	印刷費	¥604.000
広告収入	¥619.600	取材費	¥4.700
新聞会費	¥35.000	設備費	¥534.499
成蹊会助成金	¥50.000	通信費	¥77.797
		交通費	¥89.948
		事務用費	¥24.500
		雑費	¥44.804

2008年度の収支	¥−256.848
2009年度への繰越金	¥　115.327

（別途，緊急時設備購入基金として¥1.000.000を計上致します。）

以上の通り2008年度決算が確定しましたので，報告します。
成蹊大学新聞会会長　渡邊光紀

くりりんの1日体験入部 ～劇団円想者編～

本紙で幾度も活動を伝えてきた劇団円想者。しかし、公演以外での彼らの普段の練習風景を知る人は少ない・・・ということで今回、本紙記者栗原慎一郎（日本文2）は円想者への体験入部に行ってきた。目指すはもちろんオスカー像である。

待ち合わせ場所にいた部員の皆さんは、ジャージ姿だった。おお、劇団員っぽい！　と感動している暇もなく、ランニングへ出発。あれ？　ここって文化団体だったよな・・・

練習部屋に戻ると、そのままストレッチと筋トレが始まる。結構辛い・・・しかし、これに何の意味が？　指導に当たってくれた松本龍一さん（現代社会2）に聞くと「舞台上で機敏に動くための基礎体力の養成。それにお客さんに『観ていただく』以上は、やはりそれなりの体つきをしていないといけませんから」と語ってくれた。

ぷ、プロだ・・・。

続いて、ストップやスローと呼ばれる練習に入る。ストップは、手拍子に合わせてさまざまなポーズを一瞬にしてとるものだが、部員の方々は表情まで変えている。当然私にそんな余裕などなく、必死の形相でポーズを取ることに終始した。スローは、普通の歩行をスローモーションの要領でやるだけなのだが、これが実に難しい。頭では分かっているのに、体の動きはギクシャクとしたものになってしまう。

そして腹式呼吸の練習の後に、発声練習に移る。アエイウエオア・・・テレビでよく見るアレである。私は噛みまくるし、何より恥ずかしいという気持ちが抜けなかった。だが、円想者の皆さんはそんなことはみじんも感じさせない、輝く笑顔で練習していた。

基礎練習を終えた後は、6月公演に向けての立ち稽古を見学。部屋に響く部員の声、様々な表情や機敏な動き、劇団を指導・・・その光景はまさに夢を見ているかのようであった。翌日、筋肉痛という最悪の形で醒める事となったが・・・

今回の体験入部で、円想者の素晴らしい公演は、日頃の血と汗の滲む練習、そして笑顔の賜物なのだと、身をもって知ることが出来た。（栗原慎一郎）

デスクより

■お詫びと訂正
本紙4月号（第266号）の3面「吉祥寺マップ」の記事の漢字に間違いがありました。尾張家と記載しましたが、正しくは「尾張屋」さんでした。
関係者各位にはご迷惑をおかけしました。深くおわびし、訂正致します。

■新入部員募集
部会を毎週月・水・金曜日の昼休みに開いているので、気軽に見学にいらして下さい。また、場所は学生会館3階302号室にて。

■広告掲載募集
新聞会では、段下広告の掲載を募集しております。詳しくは題字下のアドレスまでメールにてご連絡ください。

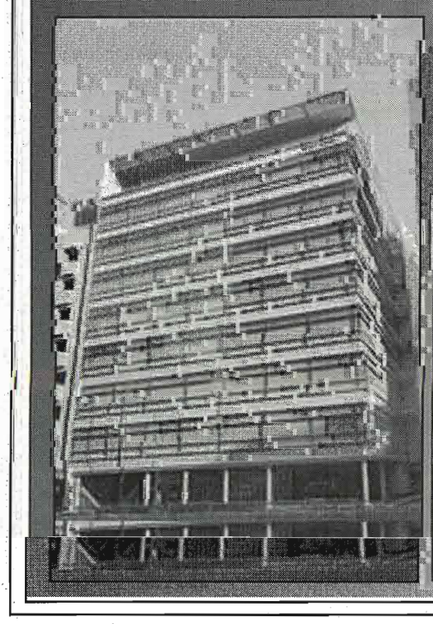
成蹊大学新聞は学生が自主的に発行している新聞です。取材・編集・発行に関するすべての責任は成蹊大学新聞会に属します。次号は7月上旬に発行予定です。

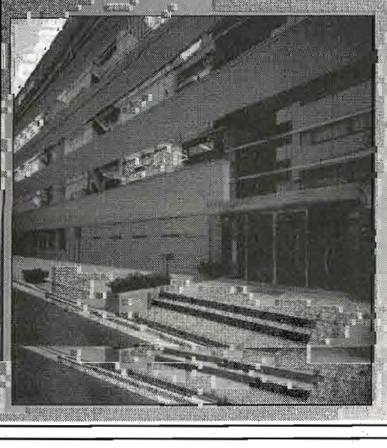
スポーツ通信

▼テコンドー
3月21・22日に第20回全日本テコンドー選手権大会が開催された。この大会で、テコンドーサークル「CHONII」に所属している大谷悟選手（経済経営2）が、団体組手でベスト8に入賞した。

▼陸上
5月16・17日に国立競技場で第88回関東学生陸上競技対校選手権大会が行われた。この大会の男子2部100メートル部門で田中俊選手（法律3）が見事、優勝した。田中選手は予選、準決勝と上位通過で順当に勝ち進み、決勝でもそのペースを崩さなかった。決勝のレースではマイナス3・8の向かい風の中、10秒95という好タイムを記録し、2位以下の選手のタイムを圧倒した。（橋本成矢）

SATORI GROUP





Technology
Solution
Global

手を伸ばすと、指先に“未来”が触れた……。
挑戦する楽しさを、
やり遂げる喜びを分かち合いたい。

FORESIGHT
もっと先へ、もっと未来へ
もっと先へ、もっと未来へ

会社概要
・設立　1947年
・資本金　26億1100万円
・売上高（単体）　1098億4900万円
　（連結）　2109億6700万円
・株式上場　2003年　東証一部
・事業内容　電子部品・電子機器の販売及び、これらに付帯する事業
・子会社
佐鳥エス・アイ・シー
佐鳥パイニックス
スター・エレクトロニクス
佐鳥エス・テック
台湾佐鳥
香港佐鳥
佐鳥貿易（上海）
韓国佐鳥
シンガポール佐鳥
佐鳥タイランド
佐鳥E−テクノロジー
佐鳥ドイツ
佐鳥パイニックスシンガポール
佐鳥パイニックスタイランド
佐鳥パイニックス香港
佐鳥エス・テック香港
佐鳥企業管理諮詢（深圳）

NEC販売特約店
佐鳥電機株式会社
http://www.satori.co.jp/
代表取締役社長　植田一敏（工業化学 1971年卒）

代表取締役社長　植田一敏（工業化学 1971年卒）